式辞

第七十二回卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。

本来であれば、御来賓や保護者の方々、そして、在校生にも参列いただき、皆さんの卒業を盛大に祝いたい気持ちでいっぱいである。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大という未曽有の危機的状況の中、皆さん卒業生と我々教職員のみの卒業証書授与式を挙行する。参列者数こそ少ないが、数には決して負けない、質で勝負の思い出に残る卒業証書授与式にしたい。

さて、平成二十九年四月十日に入学した皆さんは、期待と不安が入り混じる複雑な心境の中、対面式やオリエンテーション、部活動紹介を経て、本格的な授業や部活動の参加に至った。四月二十八日の遠足では、飯盒炊飯とアスレチックを楽しみ、クラスメートとの親睦を深めた。六月一日の体育祭は、通り雨が降る中であったが、大縄跳びで一致団結を学び、クラスの親睦が一層深まった。第二学年の修学旅行では、平和の大切さを実感し、社会と自身の在り方を見つめ、大人へとさらに歩（あゆみ）を進めた。そして、第三学年では、「三種目一級五十人プロジェクト」に取り組みながら、進路実現に向けて情報収集と学びを進め栄冠を勝ち得た。

このように立派に成長した皆さんへ、卒業に当たって送るメッセージは、「自己確立（自助）と相互依存（共助）で、より良く生きろ！」である。

突然だが、皆さんは「はやぶさ２」を知っているだろうか。

「はやぶさ２」は、「はやぶさ」の後継機として、小惑星サンプルリターン（試料回収）を行うミッションを持っている。２０１４年に打ち上げられた小惑星無人探索機「はやぶさ２」は２０１９年末に小惑星リュウグウにおいて岩や砂などのサンプルを採取し出発した。そして、２０２０年末に地球に帰還する予定である。つまり、「はやぶさ２」はこの卒業証書授与式が挙行されている今現在も、地球に向けてその歩を続けているのである。

この小惑星無人探索機「はやぶさ２」は、「自己確立」と「相互依存」で成り立っている。大企業としては、小惑星に衝突体を発射して人工のクレーターをつくるインパクタの開発を担当したＩＨＩエアロスペース、イオンエンジンの開発を担当したＮＥＣ、岩石や砂などを回収するサンプラホーンの開発を担当した住友重工業、リチウムイオン電池で電源を供給するバッテリーの開発を担当した古河電池など、日本が誇る世界に冠たる企業が参加している。一方、池井戸潤氏「下町ロケット」張りの中小企業も負けてはいない。得意技は「狭いスペースに押し込むこと」である明星電気は、宇宙での使用に耐えられる部品をかき集めてレンズや検出器、無線機器などを直径十センチメートル、高さ十センチメートルの筒に詰め込んだ。爆薬メーカーの日本工機は、「通常考えられないほど小さい」爆薬の注入口にてこずり、開発担当者の一人は「会社人生の中で初めて『無理』という言葉を使った」と嘆きながらも、その難局を克服した。「はやぶさ２」のミッションマネージャである、ＪＡＸＡ（宇宙航空研究開発機構）の吉川真氏は「宇宙開発プロジェクトには町工場のような中小企業の部品が不可欠」と言う。

つまり、「はやぶさ２」は、それぞれが自己確立した小・中・大企業の技術の粋（すい）が集まるとともに、それらの最先端技術が決して喧嘩をせずに協調した相互依存の集まりなのである。「はやぶさ２」こそ、世界に冠たる我が国の自助と共助の結集なのである。

ところで、これからの時代は、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の英語の頭文字でできた「ＶＵＣＡ」（「ブッカ」もしくは「ブーカ」と読む）の時代と言われている。

ＶＵＣＡの時代に向けて、皆さん一人ひとりが、「はやぶさ２」のように、自分を律して独り立ちするとともに、一方で、困難に対してはお互いがその強みを生かし合って立ち向かい、より良く生きていってほしい。もう一度言う、「自己確立（自助）と相互依存（共助）で、より良く生きろ！」

結びに当たって、本日、御参列の機会を設けることができませんでした保護者の皆様にお詫びを申し上げるとともに、これまでの本校教育への格別なる御理解と御協力に感謝申し上げます。そして、御子息御令嬢の御卒業、誠におめでとうございます。

令和二年三月十日

埼玉県立浦和商業高等学校長　内田　靖